

(論文)

歴史から見た交通産業に対する学生の学びについての検討 (1)

：東京交通短期大学における2022年度の交通史講義を事例に

A Study on Student Learning for Transportation and Communication

History Lectures

大野 絢也

Junya Ohno

要旨

東京交通短期大学運輸科における専門科目「交通史」講義内で行った学生アンケートおよび提出課題の内容を分析し、短期大学における歴史から見た交通産業に対する学生の学びについて、歴史教育の実践課題を自己評価的に整理した。そして本稿における検証の結果、交通産業を歴史学的アプローチから見る交通史講義の受講を通し、多くの学生にとって鉄道だけでなく航空機・自動車・船舶・通信など様々な交通機関に視野をひろげるのに役立っていたことが明らかとなった。昨今の交通産業をめぐる現状を踏まえて、学生のニーズに合わせた社会認識形成を支援しそれぞれの基礎的資質を高める上でも、近代以降における交通機関の発展過程に重点を置いた交通史講義は有効性を持っている。また、現在の国際情勢や地域社会における課題など社会的分野の知識に関心を持つ契機となっていた側面があったことも指摘した。大人数の受講者を対象とした交通史講義において、いかに個々の学生の視野をひろげられるような授業を実践するかが今後の課題である。

キーワード： 交通史 交通産業 学生アンケート 歴史教育 歴史学的アプローチ